

前回のワークショップふいかえり

改修に向けた“みどり”について考える！

【既存樹木】

- 枯損・病害虫に侵された樹木
- 密集していて不要な死角・暗がりとなっている樹木
- 施設整備によりやむなく支障となる樹木

公園利用者の安全・安心を阻害する樹木は整理

【新たな緑地空間をどの様に考える？】

- 良好な緑地・水辺空間の維持
- 心地よいと感じる空間は、場所によって違う
- 公園周辺に立地する魅力的な空間とのつながり
- 生き物を“育てる”という観点から
→持続可能な管理をどう考える？

新たな緑地空間を考える際のポイント

- 現状で心地よいと感じる空間はどのような空間？
→現状の心地よいと感じる空間の拡充・連続性
- 誰もが快適で、安全・安心して利用できる空間
→見通し・視認性⇄地域の緑の骨格としての緑量
- 多様な生態系の保持
→立入りを抑制する場所も必要
- 公園周辺に立地する魅力的な緑地空間とのつながり
→郷土性や敷地形状から中央公園らしい緑地空間を創出
- 新たな賑わい・コミュニティ空間
→地域参加型の管理・運営

それぞれの場所で、どのような“緑地空間”とするか？

【北側エリア】



【南側エリア】



○ みどりについて

【全体】

- ・ 『花のまち恵庭』を象徴する花壇があれば良い

【園路・流れ沿い】

- ・ 園路・流れ沿いのサクラやカエデなど、四季を楽しめる並木は維持したい
- ・ サクラは虫がつきやすいので、ベンチの配置に留意する

【北側エリア】

- ・ 東側の見通しの確保とカラス対策
- ・ メイン出入り口周辺の木陰が小休憩に最適
- ・ 軽スポーツエリアは防音植栽を検討し、利用上実のなる樹木は避ける
- ・ 遊びひろばにも適度な木陰をつくり、見通しを考えて低木の植え過ぎには気をつける

【南側エリア(築山・プレーパーク周辺)】

- ・ ランドマーク要素となる大きな樹冠の樹木を植える
- ・ スラックラインや木登りが出来る樹木を植える
- ・ 実がなる樹木を植える(コクワ、クワ、ヤマブドウなど)

【図書館周辺】

- ・ ニホンスズランやシンボルツリーを植える

【アナベルロード】

- ・ 今後に残していきたい
- ・ 恵み野中学校の総合学習として今後も利用する

【池・中島】

- ・ 人が入れない中島に改修しても、ある程度管理は必要
- ・ 野鳥が好む実がなる樹木を植えると良い

【親水デッキ空間】

- ・ 木陰のある空間が必要

【駐車場】

- ・ 木の実がなる樹木を植えるとタイヤでつぶすので配慮する

【管理】

- ・ 落ち葉や花がらの清掃、樹木の枯損・密集などを整理したい
- ・ 中長期的な視点に立った樹木のあり方を考える必要がある

【その他】

- ・ 多様な生態系を観察できるビオトープがあっても良い

○ 施設整備について

【北側エリアのステージ】

- ・ ステージは必要だが、配置や向きの検討が必要

【遊びのひろば】

- ・ 地域外の子どもたちも利用したくなる遊具整備として、公園をPRしたい(恵庭市内には無いフワフワドームなど)
- ・ 斜面を利用した滑り台があると良いのでは
- ・ バケット型ブランコは対象年齢が限られてしまうため、普通の座面が良い

【流れ・親水空間】

- ・ 親水空間は着替えや日よけのために四阿などの休憩施設が必要
- ・ 流れは現状の護岸だと入りにくいので、入りやすくする

【緩やかな斜面】

- ・ 芝生に座るのではなく、ベンチなどが必要

【園路】

- ・ キロポストを設置したい
- ・ ゆったりと歩ける幅員を確保する

【駐車場】

- ・ 駐車スペースは北側にあった方が良くはないか